

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町の個人住宅建設などの小規模開発に伴う、記録保存のための町内遺跡発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理作業は、国（1,990,000円）、県（995,000円）の補助金を受け、平成4年4月9日から平成5年3月31日まで実施した。
3. 調査組織
 調査主体者 大井町教育委員会
 教 育 長 小林茂吉
 社会教育課長 吉田和子 文化財保護係長 岩崎保夫
 文化財保護係・発掘調査担当者 坪田幹男・高崎直成・鍋島直久
4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。（順不同）
 執筆は坪田幹男、鍋島直久があたり、それぞれ文末に記した。
 土器復元・拓影：中田藤子、中野和子、丹治つや子、遺物実測：鍋島直久、高橋けい子、石垣ゆき子、斎藤尽志、トレース：小林登喜枝、須藤さち子、図版作成：柚木嘉図子、遺構写真：坪田幹男、鍋島直久、遺物写真：荻原明、鍋島直久、また、本書の編集・挿図の作成については今井堯氏の絶大な援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏、機関より御指導、ご協力を賜った。
 浅野晴樹、荒井幹夫、有山隆造、今井堯、内田賢司、加藤秀之、神木繁嘉、駒井和久、桜井信枝、佐藤正志、笹森健一、島田一郎、田代治、谷井彪、中島宏、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、三上七五郎、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治（敬称略）埼玉県教育局指導部文化財保護課、大井町大井・苗間第一土地区画整理組合、亀久保特定土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会。
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。明記して謝意を表したい。
 〈発掘調査参加者〉（敬称略）
 会沢泉、新井和枝、荒井美奈子、飯塚泰子、石川八重子、井上晴江、内田信治、海老原サナエ、大井美智子、大曾根キク子、遠田つる、笠原英子、片岡ミヤ子、金子君子、神木光治、小林こずい、小山エミ子、斎藤尽志、佐久間ひろ子、佐藤智子、鈴木英子、鈴木エミ子、鈴木健蔵、関田成美、高木千恵子、高橋明美、戸澤竹二、中嶋末子、仲里しげ子、並木宗次、野岡由紀子、野沢松代、羽柴理恵、林きぬ子、比嘉洋子、細谷清作、三村美代子、森脇やよい、ハッ井幸子、山形幸子、山下一枝、若尾久美子、若林紀美代。
 〈整理作業参加者〉（敬称略）
 石垣ゆき子、斎藤尽志、須藤さち子、柚木嘉図子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、中野和子
 ※1989年から発掘調査に協力いただいた、遠田つるさんが3月急逝されました。生前のご協力に深く感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

凡 例

1. 本書の図版の縮尺は、住居・土坑1/60、炉1/30、土器実測図1/4、土器拓影1/3とした。
2. 遺構図中の細数字は、床面もしくは確認面からの深さ（cm）を示す。
3. 胎土粒子に関する各項の基準は次のように定めた。
 小礫；2.0mm以上、粗砂；0.2～2mm、細砂0.2mm以下。
4. 土器図の断面図の表図は、「網目」が繊維含有、「黒丸」が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

I 経緯

○ 調査に至る経緯

埼玉県大井町は、首都圏30km圏内の県西南部に位置する。かつては畑作を中心とする純農村地帯であったが、昭和40～50年代にかけて人口で約22,000人、6,000戸が急増した。面積8㎢で現在の人口は39,000人を超えている。昭和60年代以降は、大規模な土地区画整理事業が進められ、町内遺跡の約80%近くがその区域内に位置しているため、土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査が町遺跡調査会により通年実施されてきている。町では、国庫補助を受けて「町内東部遺跡群発掘調査事業」(昭和53年～平成元年)「町内遺跡(群)発掘調査事業」(平成2年～)として民間の小規模開発に対処するため、埋蔵文化財の調査を実施してきた。遺跡の調査は、庁内関係各課と連絡調整をして行ってきた。農業委員会事務局から農地転用許可申請段階、また、都市整備課から開発事前協議、建設課から建築確認等の申請段階でそれぞれチェックされ、教育委員会は遺跡地図と照合のうえ現地踏査を実施し、遺跡の状況を確認したうえ、遺跡に影響をおよぼすとみなされる工事主体者に連絡し、協議を行った。その結果、教育委員会が記録保存のための発掘調査を工事主体者から依頼され、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施することになったものである。平成4年度の調査は、下記の16箇所であった。民間及び公共事業に伴う埋蔵文化財の試掘調査についても、国庫補助事業として対応した。

No	遺 跡 地 点 名	所 在 地	開発面積(㎡)	調査原因	調査期間
1	亀居遺跡第33地点	大井町亀久保1011-7	998	個人住宅建設	4/9～4/30
2	本村遺跡第25地点(試掘調査)	〃 大井107	370	倉庫建設	5/21、6/2
3	大井氏館跡遺跡第7地点	〃 大井241-1	157	個人住宅建設	6/3～6/17
4	苗間東久保遺跡第18地点(試掘調査)	〃 苗間字東久保639、640、641、464	906.84	分譲住宅建設	6/2～6/22
5	西ノ原遺跡第56地点	〃 苗間字西ノ原133-2	261.4	〃	6/23～6/26
6	西ノ原遺跡第57地点	〃 苗間字西ノ原143-3、143-4	174	個人住宅建設	7/6～9/1
7	浄禅寺遺跡第7地点(試掘調査)	〃 苗間字東久保573-4	831.15	共同住宅建設	7/4～7/17
9	西ノ原遺跡第58地点	〃 苗間字西ノ原137-2	146	個人住宅建設	9/8
10	中沢前遺跡3地点(試掘調査)	〃 苗間字西ノ原189-3	272	〃	10/1～10/2
11	西ノ原遺跡第59地点	〃 苗間字西ノ原135-1	494.9	〃	10/6～11/12
12	本村遺跡第26地点(試掘調査)	〃 大井348、369、370の一部	575.7	〃	10/4～10/6
13	本村遺跡第27地点(試掘調査)	〃 大井145	1,101	共同住宅建設	10/27
14	中沢前遺跡4地点(試掘調査)	〃 苗間字西ノ原201-2	168	個人住宅建設	11/13、11/20
15	西ノ原遺跡第60地点	〃 苗間字西ノ原136-2	253	〃(曳家)	12/10～12/25
16	中沢前遺跡5地点(試掘調査)	〃 苗間字西ノ原184-1	732	駐車場造成	2/13～2/18

(坪田幹男)

3 中沢前遺跡第4地点

調査の経過と概要

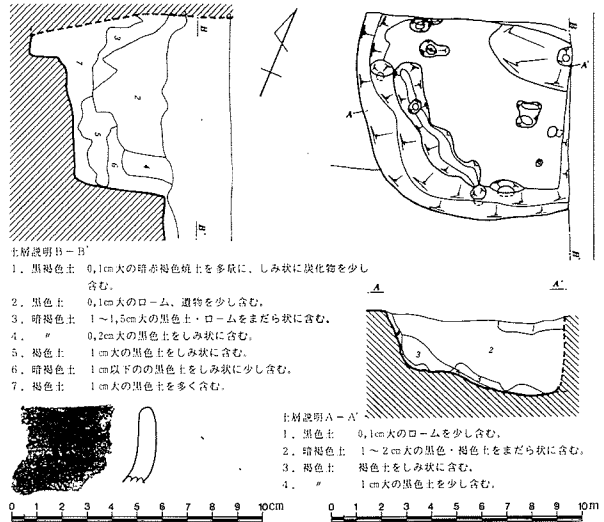
平成4年9月23日、木村周治氏より、中沢前遺跡内に個人住宅建設による埋蔵文化財包蔵地事前協議書が町教育委員会に提出された。建設予定地は、中沢前遺跡内の西北縁部に位置し、南側を第3地点に隣接する。調査区は遺構の分布も少なく、出土遺物の少ない部分であるため。協議の結果、範囲確認と遺構の存在確認のための試掘調査を行う事とした。

1992年11月13日、調査区に幅約2mのトレンチを3本東西方向に設定した。重機による表土除去の結果、調査区北東隅に黒色プランが確認されたため、翌日14日より本調査を行った。調査は、廃土置場の問題から調査区を北側半分と南側半分に分けて行った。調査の結果は試掘調査で確認した土坑1基を検出して11月20日全ての調査を終了した。

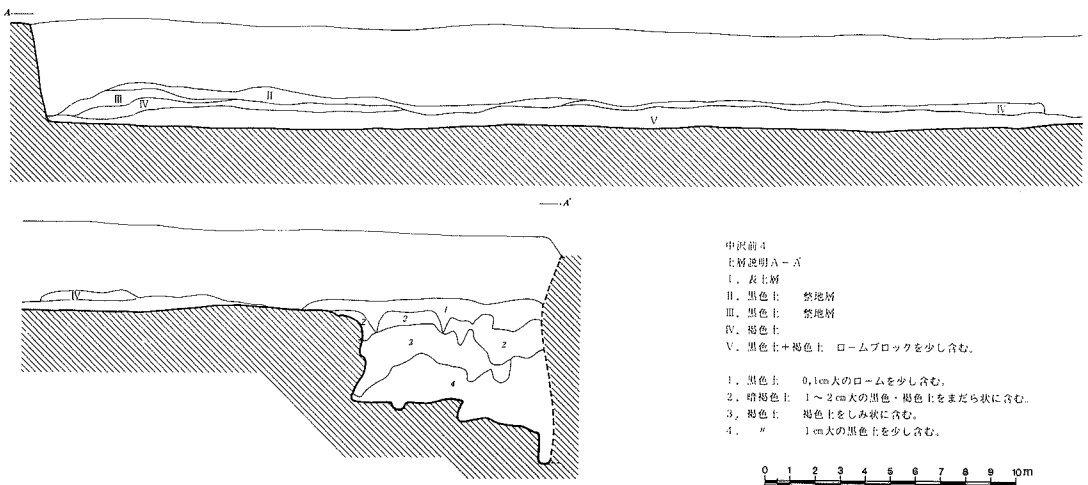
土坑

土坑は調査区の北東隅に位置し、調査区外へと延びている。検出部の平面形は、隅丸上を呈する。底面には小さいピットが多数存在し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。確認面からの深さは、31cmを計り、底面のピットは最深部で60cmを計る。

(鍋島直久)



第60図 中沢前遺跡第4地点土坑 (1/30) ・出土遺物 (1/3)



第61図 中沢前遺跡第4地点土層図 (1/60)



中沢前遺跡第3地点調査区全景



中沢前遺跡第4地点土坑全景



中沢前遺跡第5地点調査区全景



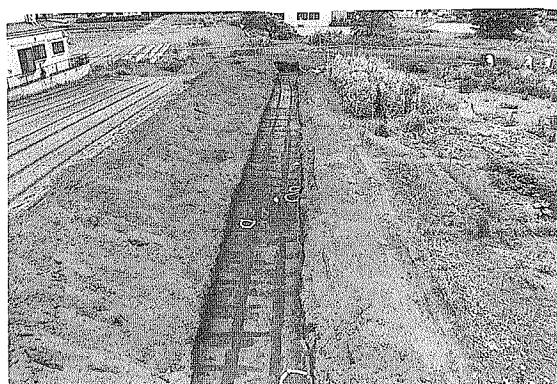
本村遺跡第25地点調査区



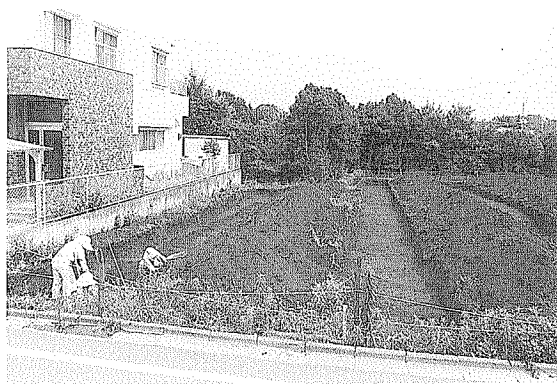
本村遺跡第26地点試掘風景



本村遺跡第27地点調査区



苗間東久保遺跡第18地点試掘区



浄禅寺跡遺跡第7地点調査風景